

自治医大 HP 掲載用：第 11 次自治医科大学災害派遣医療チーム活動報告書

第 11 次自治医科大学災害派遣医療チーム

執筆責任者：河野正樹（医学教育センター、E-mail：mk78025@msn.com）

第 11 次自治医科大学災害派遣医療チーム活動報告をいたします（文中敬称省略）。それぞれの活動の思いを秘めた写真とともに、簡単な説明を付しておきました。ご笑覧頂ければ、幸甚です。また、ご意見や誤謬・事実誤認のご指摘は、執筆責任者へ E-mail でお願いいたします。

1. 派遣期間と派遣場所：平成 23 年 6 月 3 日～6 月 10 日、岩手県大船渡市。

2. 派遣人員：

1) 医師：上原 里程（公衆衛生学、派遣期間 6 月 3 日～6 日）

河野 正樹＝“島医者 K”（医学教育センター、派遣期間 6 月 7 日～10 日）

2) 看護師：三浦 翔子（附属病院本館 5E）、

戸村 仁美（子ども医療センター小児集中治療部）

3) 事務：宇賀神 歩（附属病院地域医療連携部総合相談室医療ソーシャルワーカー）

海老原 宏（大学事務局総務部人事課）

3. 活動記録と報告

1) 6 月 3 日（金曜日）午後、岩手県立大船渡病院到着、第 10 次チームと業務引継ぎ。その後は、県立大船渡病院の病室を拝借し、皆さん久々の合宿生活。当然自炊ですが、食事は活動の源、今夜は豪勢な具たくさん冷やし中華。



久々の 自炊生活 大船渡（島医者 K）

2)6月4日(土曜日): さあ、いよいよ巡回診療に出かけます。ライトバンに、診察道具、診療録、薬品を積み込んで、いざ出発。



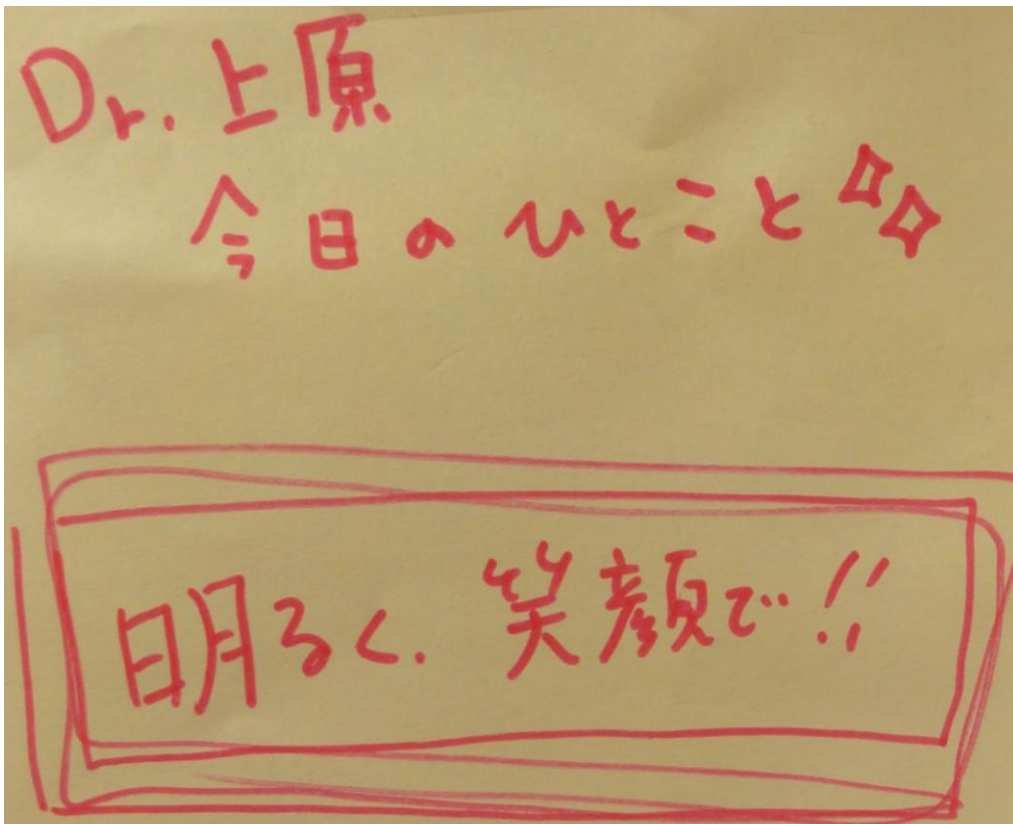
待っててね 今から行くよ おばあちゃん (島医者 K)

- 09時～11時: 大船渡地区公民館避難所で診療、患者5名。熱中症予防パンフレット配布。
- 13時～14時: リアスホール避難所で診療、患者3名。
- 15時～16時: 大船渡北小学校避難所で診療、患者1名。熱中症予防パンフレット配布。



ありがとう つらい時でも 忘れない (島医者 K)

16時30分～18時：大船渡市保健介護センターにて、大船渡市担当者の司会で全体ミーティングあり、各支援チームが活動報告を行いました。
その後、県立大船渡病院へ戻り、グループ内でのミーティングと夕食。



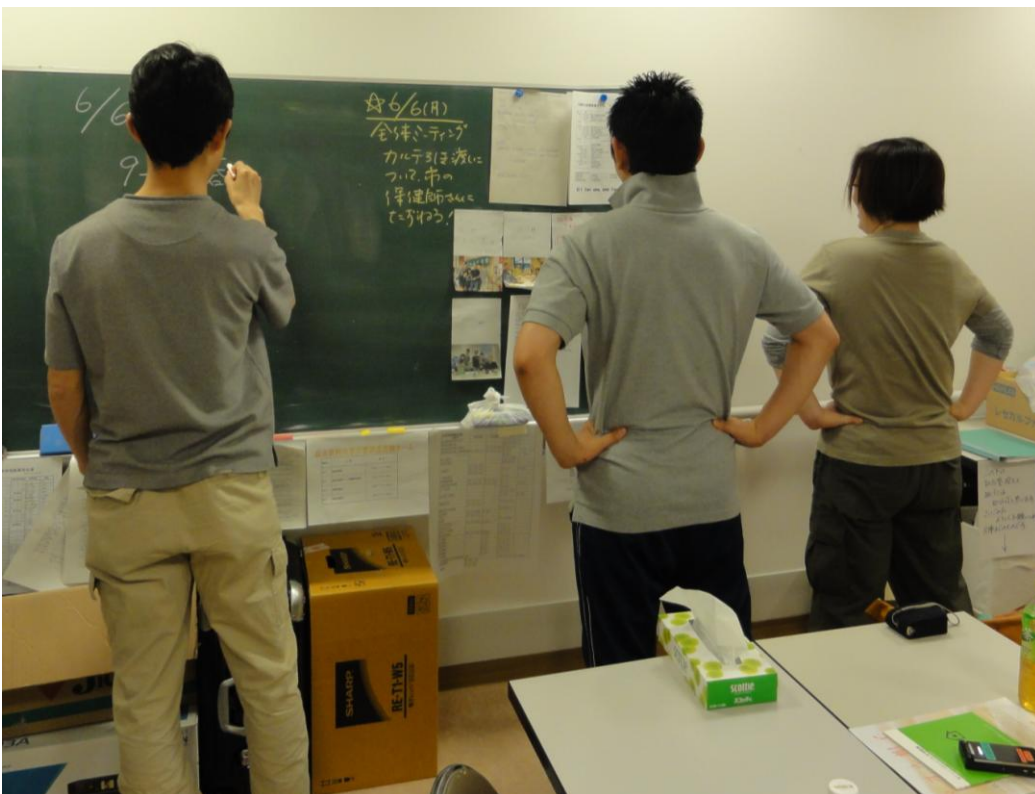
避難所の 心を癒す 笑顔かな (島医者 K)

3)6月5日(日曜日):今日は巡回診療なし。一日、英気を養い、今から全員参加型自炊の夕食です。今日のメニューは、岩手県名物「どんこ汁」。



どんこ汁 まだ煮えないか 心待ち (島医者 K)

夕食の後は、明日の巡回診療について綿密な打ち合わせを行ってから、各自就寝。



片時も 仕事忘れず 頑張ってる (島医者 K)

- 4) 6月6日（月曜日）：本日は合計23名の患者さんを診療、一日での最多患者数でした。
09時～11時：碁石コミュニティセンター避難所で診療、患者10名。
熱中症予防パンフレット配布。
11時20分～12時20分：碁石公民館避難所で診療、患者10名。
熱中症予防パンフレット配布。



おだやかな 向ける眼差し 話聞く（島医者 K）



復興の 願い届けよ 鯉のぼり（島医者 K）

- 14時～15時：大船渡中学校避難所で診療、患者3名。熱中症予防パンフレット配布。
16時30分～18時：大船渡市保健介護センターにて、大船渡市担当者の司会で全体ミーティングあり、各支援チームが活動報告を行いました。

5)6月7日(火曜日):午前11時15分、河野医師(=島医者K)が県立大船渡病院へ到着。



朝、宇都宮駅を発ち東北新幹線一ノ関駅で下車。ここからタクシーで大船渡に向かいました。普段グウタラしているので、駅の看板が囁きかけてきました。

しっかりと 支援して来い メタボ医者(島医者K)



大船渡市へ向かう途中で通った、陸前高田市矢作町。ここは、海岸から7~8km程陸に入ったところですが、津波が遡及して大被害を受けていました。後に、大船渡市の避難所でおばあちゃんから聞いた話、「海のすぐ傍にいたから津波にやられた。でも、海が見えたから逃げられた。」と。

津波来る 早く逃げろと 走り出す(島医者K)



途中、迂回路や仮道路を走ること約 2 時間で、自治医大震災派遣団の基地がある県立大船渡病院へ到着。高台に立てられており、津波の被害は受けず建屋の損傷も軽微のようでした。大船渡地区の医療、特に救急医療の最後の砦です。頼もしく見えました。

大船渡 守っているぞ おいどんが（島医者 K）

14 時～15 時 30 分、市内巡回し避難所などを見て回った後、病院事務へ挨拶し、夕食、そして明日の巡回診療の関する打ち合わせ。



東日本大震災から約 3 か月が経ちますが、津波被災地域にはまだまだ瓦礫が広がっており、復興への道遠しとの印象です。

海沿いに 広がる瓦礫 土ぼこり（島医者 K）



海岸から数百メートル奥まで、漁船が流されていました。

陸（おか）にある 漁船の上を 舞うカモメ（島医者 K）



港近くの倉庫の屋根には、普通乗用車が1台、未だに載ったままです。

屋根の上 車一台 座ってる（島医者 K）

あるボランティアの方から聞いた話です。「ショベルで硬く乾いた泥を掘っていたら、旧千円札（肖像画は伊藤博文）が出てきた。」そうです。涙が出ました。

泥まみれ 伊藤博文 瓦礫より タンス預金か 持ち主いずこ（島医者 K）



路傍の花。

がんばれと 黄色い声援 蒲公英（島医者 K）

6)6月8日（水曜日）：早く起きて、散歩を試みました。



朝靄の懸かった大船渡市街地。一見、平和な港町の朝にみえますが。

瓦礫さえ 無くばいつもの 港町（島医者 K）



県立大船渡病院構内のつつじは満開。思わず見とれていました。

つつじ花 負けてはダメよ 話しかけ (島医者 K)



生垣の下には、早起きスズメが1羽。よく見ると、虫をくわえていますよ。

The early bird catches the worm. (西洋の諺)

今日の業務は、

11時過ぎ：薬剤師会から、薬剤処方について電話問合せがあり対応しました。

13時40分～15時40分：大船渡中学校避難所で診療、患者3名。

16時30分～18時：大船渡市保健介護センターにて、大船渡市担当者の司会のもと全体ミーティングあり。各支援チームが活動報告を行いました。

発表チーム（自治医科大学チーム以外）：

保健婦チーム（沖縄県、岡山県、甲賀市、奥州市、鹿児島県）、

心のケアチーム

（独立行政法人国立病院機構久里浜アルコール症センター：以下、久里浜チームと略、沖縄県、NPO 愛知ネット）、

薬剤師（気仙薬剤師会保健薬局部会）、
理学療法士会、栄養士会、大洋会（障害者支援を行なっている）、

県立大船渡病院救命救急センター医師、
大船渡保健所、大船渡市、

18時30分～19時：「ふくしの里センター」に避難中の高齢女性の臨時診療を依頼され、診察と薬剤処方を行なってきました。

大船渡中学校避難所での話。40歳代の女性。立ちくらみと手指爪の変形を主訴に来られました。眼瞼結膜は高度貧血様、手指爪は典型的スプーンネイル（下記写真）。教科書どおりの鉄欠乏性貧血。早速、鉄剤を処方し、震災後受診が途絶えているかかりつけ医へ紹介状を記載しました。

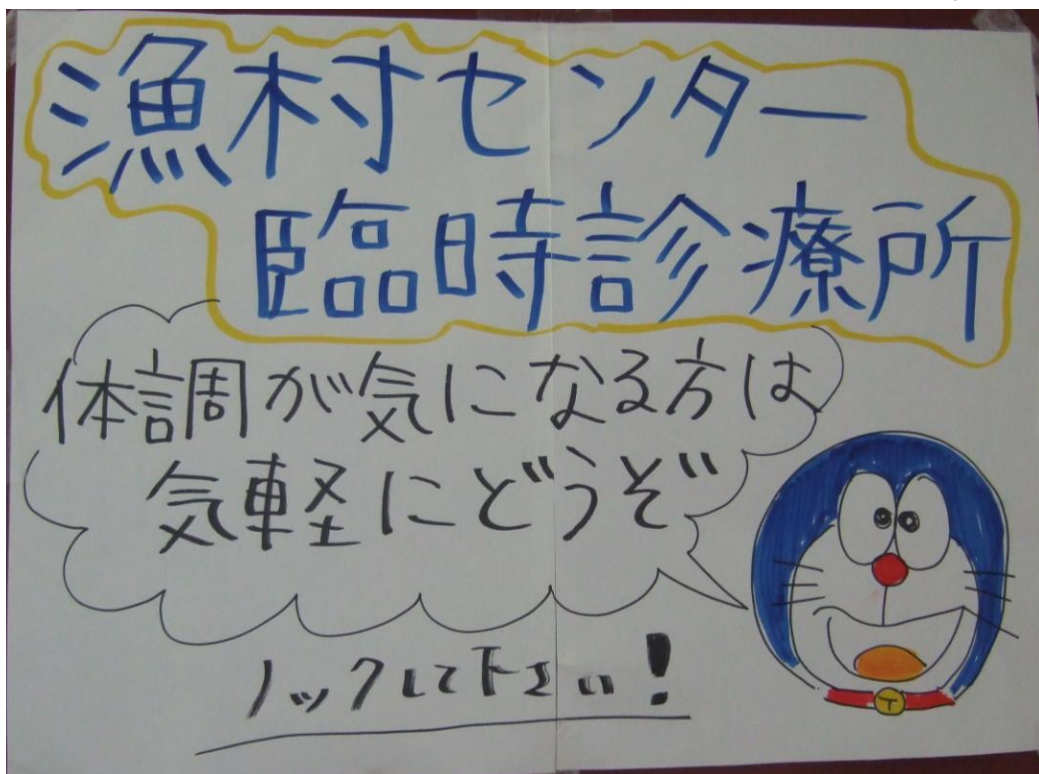


医療への道を阻みし 大津波（島医者 K）

7)6月9日(木曜日):

09時~10時10分: リアスホール避難所で診療、患者3名。

10時30分~12時10分: 漁村センター避難所で診療、患者3名。



被災地に 医の灯をともす 自治医大(島医者K)



カリフォルニア州から来られたボランティアの二人。写真の泥落としをされていました。

思い出の 写真再び よみがえり(島医者K)



今の世は 被災地支援も International (島医者 K)

8)6月10日(金曜日):

8時40分～11時:大船渡中学校避難所で診療、患者0名。しかし、岡山県保健婦チームと一緒に仮設住宅を訪問しました。また、久里浜チームと遭遇したので、精神疾患疑いの方の申し送りを行なっております。

大船渡中学校避難所での話。89歳の“てつよ”ばあちゃんは、1933年(昭和8年)3月3日の昭和三陸地震津波、1960年(昭和35年)5月24日未明に三陸地方を襲ったチリ地震津波、そして今回の東日本大震災津波と3回の津波経験者です。3月11日は、「娘に背中を押されながら、加茂神社の98段の石段を必死で登りました。境内から海を見ると波頭は白色、真ん中は黄色、周りは黒色の津波の壁が押し寄せてきました。」とお互いの手を握りながら、話を伺いましたが、語るも涙、聞くも涙。



加茂神社の石段

神様は 高台にあり 助かった (島医者 K)

避難所で生活しているのは、人間ばかりではありません。籠の中生活を強いられている飼い猫“チャコ”は、運動不足から体重が増加し現在 8kg。筆者もメタボのため、とても他人事とは思えません。対照的に散歩中のチワワは、とても元気でした。



(心なしか憂鬱気なチャコ)

避難所は 餌は満ちたり 籠の中
(島医者 K)



(散歩中のチワワは元気一杯)

飼い主と 散歩しながら 尻尾振る
(島医者 K)

瓦礫の脇にひっそりと咲いていたハマナス。働き蟻が、蜜を集めに来ていました。ハマナスも蟻も津波から辛うじて逃れ、初夏の息吹を伝えています。



ハマナスも 明日を信じて 一輪咲く (島医者 K)
そして大船渡の人びとも、頑張っています。



負けねえぞ 皆の魂 旗にあり (島医者 K)

13時30分～ : 第12次隊が到着しましたので、昼食後にそれぞれの職種で申し送りを行ないました。

15時20分 : 県立大船渡病院を発ち、帰途に就きました。



よろしくと 後を託した 十二陣 我は去るとも いつか来たらん
(島医者K)